

平成29年8月30日

鉄鋼新聞(3面)に掲載されました

日東精工

海外展開を加速

ベトナムとインドに進出
車向けねじ受注増狙う

工業用ファスナー大手の日東精工(本社・京都府綾部市、社長
・材木正己氏)は海外展開を加速させる。新たにベトナムとイン
ドの2カ国で事業展開を進めるとともに、主力のファスナー事業
では、同社が開発した締結コストを大幅に削減するセルフタッピ
ングねじの採用増を進める方針だ。29日に都内で開催した決算会
見で材木社長が明らかにした。

同社は今夏に韓国支店の開設、インドネシア現地企業からの事業譲受、アメリカ支店の現地法人化を相次いで発表、新拠点を開設し

てグローバル化を加速している。同社の2017年1~6月期業績が8割超と大半を占める。主力の自動車・二輪関連や弱電関連向けねじの受注を増やすとともに、既に拠点のあるインドネシア、タ

イ、マレーシアに続き、ベトナムとインドで事業展開を進める。

ファスナー事業では、自動車の基幹部品へのセルフタッピングねじの採用を目指す。

電装部品などへの採用実績はあるが、基幹部品では海外の自動車メーカー向けの実績に留まる。同社では、国内の自動車メーカーでも基幹部品への採用に取り組む。セルフタッピングねじは、めねじ加工、洗浄、検査の工程を省略し締結コストを約7~8割削減すると約7~8割削減すると